



NPO 法人 京都観光文化を考える会

# 都草だより

第21号  
 発行人：坂本孝志  
 編集人：西野嘉一  
 発行所：京都市上京区  
 下立売通新町西入  
 京都府庁旧本館2階  
 電話：075-451-8146



豊田上京区長



かみぎゅうくん

### 京都御苑歴史散策ツアー

「ごしよ」。この響きの中に、京都の人は深い畏敬の念を抱いてきました。天皇が東京にうつられ、公家の屋敷が無くなって百数十年、誰も往時を知らないのですが、「ごしよ」と聞くだけで背筋が伸びる気がいたします。天皇が京都にお越しになられたとき、車の中の天皇さまと目線があうと、涙が出そうになるのは私だけでしょうか。神様のような存在ではなくなりましたが、京都の人たちにとって天皇は特別な存在なのです。

桓武天皇が平安京を造られて以来、東京にうつられるまで、御所（天皇のお住まいがあるところ）があったのです。その一帯が御苑と名を変えても、京都の人たちには御所なのです。しかし、御苑の歴史、意外と知られていないことに気づきます。公家町のあった風景を思い浮かべて、どこでどのような出来事があったかを学ぶことは、御苑を正しく理解するために大切なことだと思います。「御苑を知る」。永遠のテーマであるかもしれませんが、このツアーの実施が市民の人たちに少しでも関心を持っていただくお手伝いとなれば、都草の大きな喜びになると思います。継続は力なり、といます。細く長く、一人ひとりのお客様に熱く語り続けたいと思います。関係各所、都草の会員の皆様の更なるご支援をお願いいたします。（専務理事 田村光弘）



### 「京都御苑 初ガイド」

朝から天気予報を視る。降水確率午前 50%午後 70%、気温 27℃。曇り空なるも蒸し暑い。9時から閑院宮邸跡でミーティング。坂本理事長・田村専務理事による確認事項。10時上京区長のご挨拶。上京区民の参加者 76名。いよいよ5組に分かれてガイド開始。案内箇所は散策マップに沿って、閑院宮邸跡から近衛邸跡までの 15ヶ所。私の担当は橋本家跡。ここは皇女和宮様のご生誕の地。和宮様のご生涯を物語風に説明しました。サポーターはベテランの亀田正昭さんで、初対面ながら意気投合。気楽にお話やガイドの仕方・

アドバイス等も頂き、楽しく好スタートが切れました。又、亀田さんのご提案で他の皆さんのガイドぶりを拝見させてもらったのち私の担当場所でスタンバイしました。12時前後、5組目の最後の参加者が橋本家跡へ着かれると同時に雷鳴と大雨が降り出したため、巨木から離れるようお願いしました。亀田さんには最初にお手本を示して頂き、あとの4回は私が説明しましたが、足元にも及びませんでした。無事にガイドを終えたこと紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。（会員 有川ツヤ子）



しきぶちゃん まろくん  
 （山本喜康会員 作画）

## ◆◇ 交流会 ◇◇

## 「今様合 松殿十五ヶ日」を見学して



いにしへの歌遊び「今様合」の案内文に心惹かれ参加しました。関白藤原基房の別業の地に建てられたという 4 万坪に及ぶ広大な松殿山荘での開催は深い余韻を残すものとなりました。後白河院がのめりこんだという今様合せは「日本今様譚舞楽会」の方によって再興されました。当意即妙の七五調 4 節の作歌は創作力が試される緊張感に満ちたもので、勝ち歌の朗唱に合わせ舞う白拍子の即興舞も創造性が試される知的なものであると思いました。今様合は歌遊びだけでなく衣装、楽器演奏、書、舞、朗詠、鑑賞法など奥深い芸術を内包する知的な遊びと言って良いのかもしれませんが。紅葉の鮮やかな山荘の広間でしばし平安貴族の気分に入った印象深いひと時でした。(会員 寺村いく子)

## 「今様合 松殿十五ヶ日」

会場に向かう途中の能化院で、不焼地藏尊座像（非公開）を特別拝観。3 度の火災にも地藏尊が自ら難を逃れられたと言われています。庭には「常盤御前の腰掛け石」と称する苔むした庭石がありました。松殿山荘の 4 万坪に及ぶ広大な敷地は、平安時代 松殿と呼ばれた藤原基房の別業の地です。広大な庭園を背景に大書院にて、「今様合 松殿十五ヶ日」を鑑賞しました。貴族たちが左右に分かれ、優劣を判じた遊びを〈合わせもの〉と言い、今様合せはその一つです。今様の歌の形式の代表的な詩形は七五調節 4 節で、七・五・七・五・七・五・七・五。この形式は「いろは歌」、「螢の光」、「荒城の月」などの唱歌にも取り入れられていることを知り、時代を超えて変わらぬ日本人の感性を改めて感じた一日でした。(会員 櫻井 勉)

## ◆◇ 現地見学会 ◇◇

## 「松本工房見学ツアー」



3 月 26 日の「奥谷組」研修に引き続き、今回は西京区・大原野の里にある平成の大仏師松本明慶氏の工房と通称「なりひら寺」と言われる天台宗の古刹「十輪寺」を総員 35 名で訪ねた。まず最初に訪れた「松本工房」では明慶氏が飾らない、気取らない性格そのままに軽妙な話ぶりで、仏像を彫る際の心構え、人心の掴みかた等を話された。そのユーモア溢れる経験談は参加者の心を虜にした。近年には、世界最大級の木造仏・大弁財天(鹿児島・最福寺)をはじめ、紀三井寺(和歌山)、観音正寺(滋賀)、大願寺(広島)など素晴らしい大仏を数多く奉納されている。今後益々のご活躍が大いに期待される。また、十輪寺では在原業平(平安時代の歌人)の塩釜跡、鳳輦形の本堂を拝観後、住職より寺院の沿革及び法話をお聞きし一層の理解を深めた。そして最終バスの出発時間の迫った午後 3 時 20 分無事解散となった。私達は、多くの仏像に囲まれた恵まれた環境の中で生活しているため、何時でもお参りすることが出来るが、製作現場に足を運ぶ機会はまず無い。この計画を遂行出来たことと、参加者全員のご協力に感謝！感謝！有難うございました。(理事 中江好喜)

## 秋の研修会に参加して

木々が色づく晩秋の午後、西山の麓にある松本明慶大仏師の工房と十輪寺を案内して頂きました。仏像と言え、お寺や宝物館で観る以外知らなかった私ですが、今回の工房見学できっと仏像の見方が変わると思います。都草の設立当初から会員だった夫が、いつも楽しげに語る様子を見て私も入会してみたくなったのです。今は夫と共に御苑研究会に所属しています。「何事も好きになれば出来る、出来るからもっと好きになる」。明慶大仏師に教わった言葉を胸に、このたび初めての経験、ガイドデビューをしました。会員の皆様にこれからも色々教えて頂きながら京都をもっと好きになりたいと思っております。(会員 林昌子)